審判の日の恐ろしい出来事の数々

﴿أهوال يوم القيامة﴾

[日本語– Japanese – ياباني]

ムハンマド・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジュリー

翻訳 ： サイード佐藤

校閲 ： ファーティマ佐藤

2007 - 1428

﴿ أهوال يوم القيامة ﴾

« باللغة اليابانية »

محمد بن إبراهيم التويجري

ترجمة: سعيد ساتو

مراجعة: فاطمة ساتو

2007 - 1428

islamhouse.com

審判の日の恐ろしい出来事の数々

● 審判の日は何ものにも比べようのない実に偉大な出来事であり、甚大なる恐怖をもたらします。しもべたちはその恐怖におののき、その眼球はその暗闇の中で見開かれたまま動きません。偉大かつ荘厳なるアッラーはその期間を信仰者には昼から夕方ほどまでの間に、そして不信仰者には50000年にも値する期間の長さに定められました。その日の恐ろしい出来事には次のようなものがあります：

1－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾そして角笛が一吹き、吹き鳴らされるとき。そして大地と山々が宙を舞い、一撃の下にぶつかり合って散り散りになるとき。その日起こるべくして起こるものが起こる。そして天は裂け、その日もろくなる。﴿**（クルアーン69：13－16）

2－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾太陽が包み隠されるとき。そして星々が落下するとき。そして山々が飛び散るとき。そして妊娠10ヶ月の雌ラクダ（の世話）がおろそかにされるとき[1]。そして野獣たちが呼び集められたとき。そして大洋に（火がつけられ）燃え上がるとき。﴿**（クルアーン81：1－6）

3－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾天が割れ裂けるとき。そして諸惑星が落下して散り散りになるとき。そして海々が溢れかえって1つの大洋となるとき。そして全ての墓がひっくり返されるとき。﴿**（クルアーン82：1－4）

4－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾天が裂けるとき。そして（天は）その主（の命を）を謹聴し（従っ）たが、それは（天にとって）そうすべきことであった。そして大地が平たく延べ広げられ、そこに秘められていたもの（死体など）を外に放出し、（存命していた者たちをその表面から）放り投げるとき。そして（大地は）その主（の命を）を謹聴し（従っ）たが、それは（大地にとって）そうすべきことであった。﴿**（クルアーン84：1－5）

5－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾起きるべくして起きるものが起きるとき。それが起こることを嘘とする者はない。（その日ある者たちはその位を）下げられ、（またある者たちは）上げられる。大地が激しく揺れ動くとき、そして山々が砕かれ、ばらばらに飛び散る埃となるとき。﴿**（クルアーン56：1－6）

---

1 訳者注：妊娠10ヶ月目の雌ラクダは当時のアラブの間で、最も貴重な財産の内の1つでした。

6－イブン・ウマル（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："審判の日を眼前にあるように見ることを欲する者は、（クルアーンのこれらの章を）読むのだ：**﴾太陽が包み隠されるとき﴿**（クルアーン第 81 章）そして**﴾天が割れ裂けるとき﴿**（クルアーン第 82 章）そして**﴾天が割れるとき﴿**（クルアーン第 84 章）"」（アフマドとアッ＝ティルミズィーの伝承[2]）

● **審判の日、天地は別のものと取って代わられる**：

1ー至高のアッラーはこう仰られました：**﴾その日大地はそれではない他の大地と、そして諸天はそれではない他の諸天と取って代わられる。そして（しもべたちは）唯一で全てを制されるアッラーの御許へと、（姿形もその秘めていたものも露わに、墓の中から）まかり出てゆくのだ。﴿**（クルアーン 14：48）

2－至高のアッラーはこう仰られました：**﴾その日われら（アッラーのこと）はまるで書物を巻き上げるように、天を巻き上げる。われらは丁度最初の創造を始めたように、それをもう一度繰り返すのである。（この復活こそは）われらが約束していたもの。われらはそれを完遂するのである。﴿**（クルアーン 21：104）

● **天地が別のものに取って代わられるとき、人々はどこにあるか？**

サウバーン（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）の所で立っていると、1 人のユダヤ教徒の学者がやって来ました・・・」‐そしてこの伝承の中に次のような箇所があります‐「そしてユダヤ教徒は言いました："天地がそれではない別のものに取って代わられる時、人々はどこにあるのか？"預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました："彼らは架け橋のない暗闇の中にある。"」また別の伝承にはこうあります：「"架け橋の上にある。"」（ムスリムの伝承[3]）

● **召集の場と酷暑と恐怖**：

アッラーは被造物を復活させられた後、彼らを審判の大地に結集させます。彼らはそこで靴も衣服もつけず、割礼もされていない状態のままで裁かれるのです。その日太陽はとても近い場所にあり、汗は地上において 70 腕尺にも達します。そして人々はその行いに応じて、発汗することになります。

---

[2] 真正な伝承。ムスナド・アフマド（4806）、スナン・アッ＝ティルミズィー（3333）、サヒーフ・スナン・アッ＝ティルミズィー（2653）。文章はアッ＝ティルミズィーのもの。アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（108）参照。

[3] サヒーフ・ムスリム（315）。アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）の伝える同じ伝承は（2791）。

1－アル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私は預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、太陽は被造物に接近する。そして人々の内ある者にとっては、それは 1 マイルほどの近さにまで近付く。人々はその行いに応じて発汗する。それである者はくるぶしの辺りまで、またある者は膝まで、またある者は足の付け根まで、またある者は汗のくつわをはめさせられる。”そしてアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は自らの口を指差されました。」（ムスリムの伝承[4]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「審判の日、アッラーは大地を一握りにされ、そしてその右手でもって天を巻き上げられる。そしてこう仰られる：“われこそは真の王である。地上の王たちはどこにいる？”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[5]）

● **裁きのためにアッラーがご来臨されること**：

偉大かつ荘厳なるアッラーは審判の日、裁きのためにご来臨されます。そのため大地はその御光によってまばゆく照らされ、被造物はその偉大さと荘厳さに失神します。

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**いや、決してそのようにあってはならない。大地が揺り動かされ。ぶつかり合って粉々になるとき。あなたの主は天使を隊列に組ませつつご来臨なされる。**﴾（クルアーン 89：21－22）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）によると預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「私をムーサー（モーゼ：彼に平安あれ）よりも優れている、などとしてはならない。人々は審判の日失神し、私も失神する。私は誰よりも先に意識を取り戻すが、その時ムーサーが（アッラーの）玉座の端にしがみついているのを見出す。私は彼も失神して私より先に意識を取り戻したのか、それともアッラーは彼を例外的に失神させられなかったのか、分からない。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[6]）

---

[4] サヒーフ・ムスリム（2864）。
[5] サヒーフ・アル＝ブハーリー（7382）、サヒーフ・ムスリム（2787）。
[6] サヒーフ・アル＝ブハーリー（2411）、サヒーフ・ムスリム（2373）。文章はアル＝ブハーリーのもの。